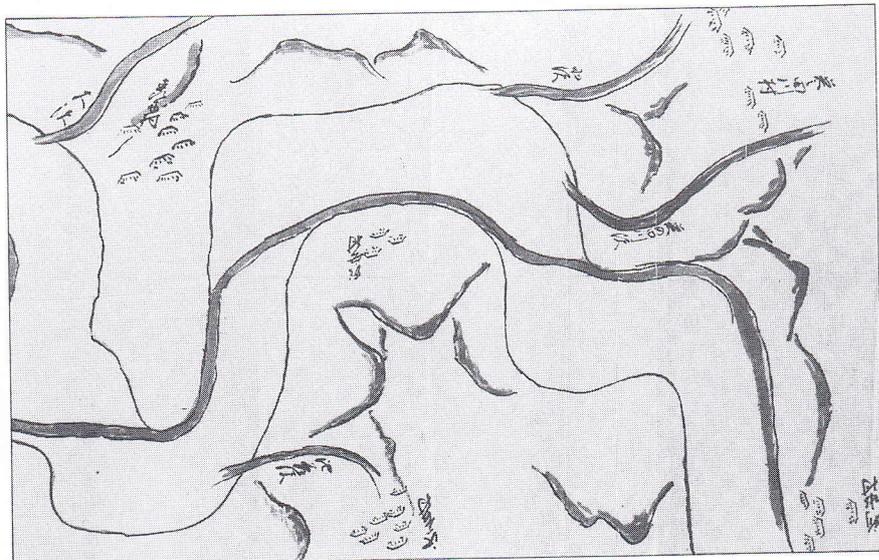


第7章

社会生活用具



■魚之田川周辺古絵図

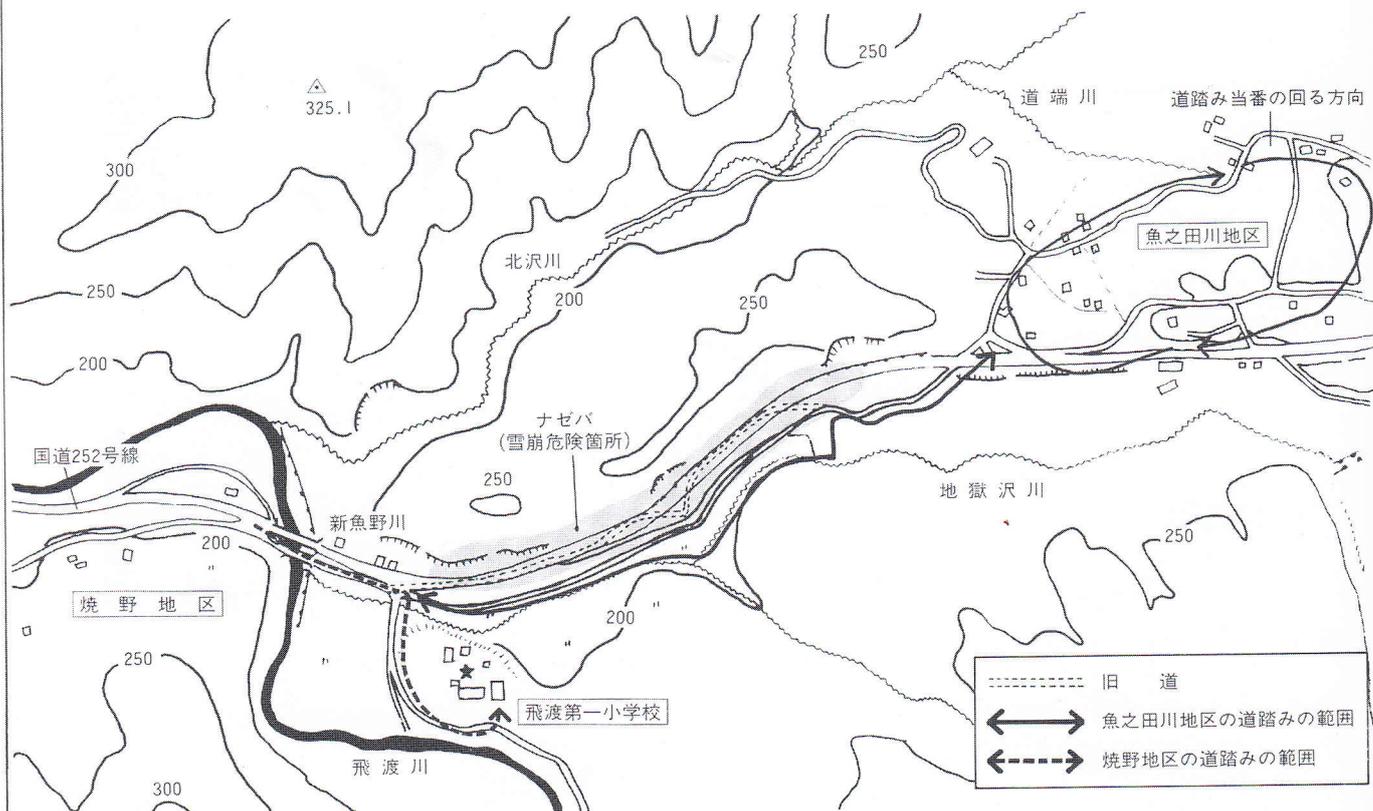
深い雪に覆いつくされ、しかも連日雪が降り続く雪国のムラの生活は、ムラ人たちお互いが協力し合うことによって維持されてきた。たとえば、火災・雪害・急病人の発生などといった不慮の事態には、当然、村を挙げて対応するが、日常的にもお互いの暮らしそのものが、あらゆる点で深くかかわり合っていた。

その顕著な例として、毎朝のように行われる道踏みを挙げる事ができる。極めてさりげなく当然のようになされるこの行為により、ムラの血管である道路交通が確保され、生命体としてのムラは息づくことができた。

したがって、社会生活に関係する用具類は、個人所有のものにも多く含まれているし、本図録の各項に所属する中にも少なからずある。そこでここでは、それらの再掲は避けて、限られたものだけを掲げることにした。

次頁に示したミチフミバンは、ムラとムラとを繋ぐ道や学校などの公共施設へ通じる道を、ムラの人たちが当番を決めて道つけをする時の順番を記したもので、これが回って来ると当然のこととして、その役割を果たした。下にその具体例を示し、さらに冬季分校で用いた用具類などを紹介した。

市内魚之田川の道踏み経路



魚之田川地区では、雪の積もった日に小学校までの道を各家が順番に道踏みを行っていた。朝5時過ぎには身支度を済ませ、往復約2kmの道のりをカンジキを履いて踏み固めていった。小学校に続く道の北側斜面はいわゆるナゼバ(雪崩危険箇所)が続いていたので、この手前で道沿いの地獄沢川に降りて、田圃の中を迂回して進んだ。大雪の降った朝は次の当番の家々に呼び掛け、スカリを履いた者を先頭にして4~5人で道踏みをした。深雪の中をスカリで進むのはたいへんな重労働なので、50mも歩けば後続の者と交替せざるを得なかった。小学校

から折返して村に帰るのは7時ころになった。

また日中大雪が降り、朝に踏んだ道が埋もれると、次の当番の家はヨイミチといって下校時刻前に道踏みをしなければならなかった。道踏み番(道踏み当番)は、村内約30軒の輪番制で、一回道踏みに出ると次の番の家に道踏み板を手渡すのだが、大雪の年は週に一度くらいの頻度で番が回ってくることもあった。

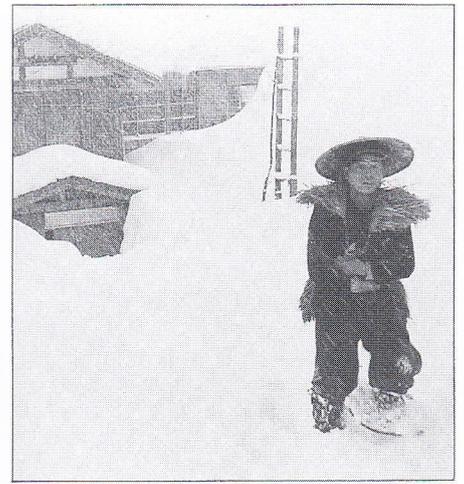
こうした雪との闘いも、昭和46~47年には道路除雪が開始、さらに昭和49年には国道が整備され道路の無雪化が実現されることにより、終りを告げた。



■スカリを履いての道踏み

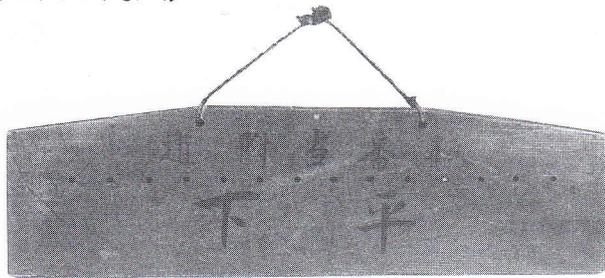


■ミチフミバンの一例



■各家の周辺の道踏み

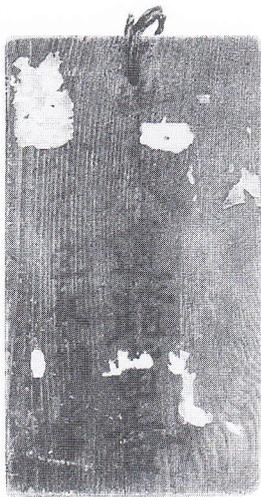
〔道開け用具〕



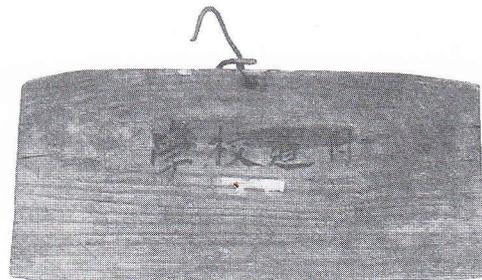
ミチフミバン 7-1
13.9×49cm 厚さ1.1cm
朴 道踏み当番表(市内小貫のもの)



ミチフミバン 7-2
22.2×58.1cm 厚さ0.7cm
杉 道踏み当番表(市内池谷のもの)



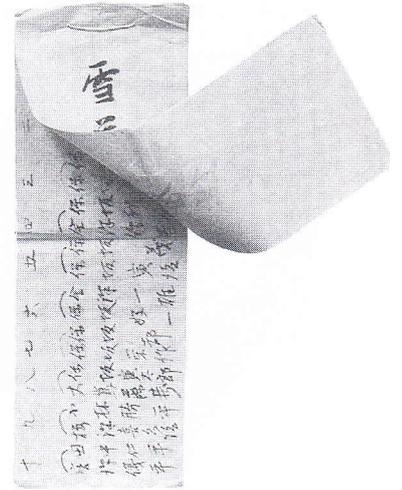
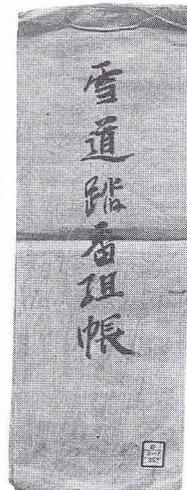
ミチフミバン 7-4
33.3×18.7cm 厚さ1.8cm
杉 道踏み当番表
(市内名ヶ山のもの)



ミチフミバン 7-5
15.5×34cm 厚さ0.8cm
杉 道踏み当番表(東頸城郡松代町のもの)



ミチフミバン 7-3
縦11×19.9cm 厚さ0.7cm 棒長さ34.4cm
杉・その他 道踏み当番表(市内軽沢のもの)



ミチフミバングミチョウ 7-6
40.3×14cm
和紙 道踏み当番表(市内姿のもの)

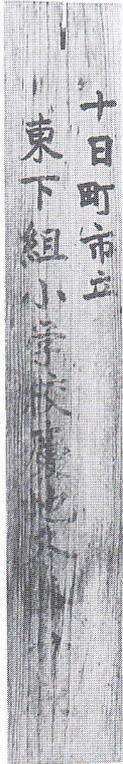


■授業風景

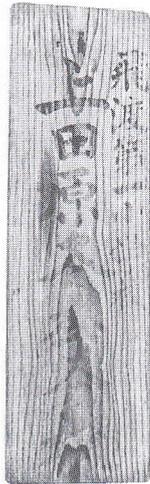


■雪中の登下校

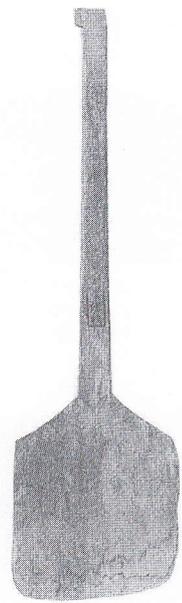
(冬季分校(雪中校)用具)



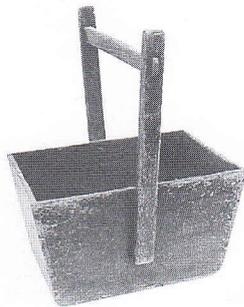
トウキブンコウカンパン 7-12
151.1×23.1cm 厚さ2.6cm
杉 雪中校の看板
(東下組小学校慶地冬季分校)



トウキブンコウカンパン 7-11
61.7×18.7cm 厚さ2cm
杉 雪中校の看板
(飛渡第一小学校上田原冬季分校)



コシキ 7-17
全長96.5cm 刃先幅27.5cm 935g
ブナ 雪中校の除雪用木鋤



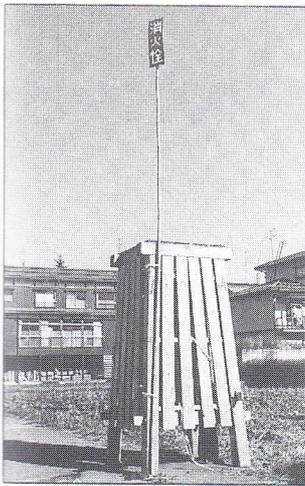
スミバコ 7-15
38.4×30cm 全高48.8cm
杉 雪中校用炭入れ



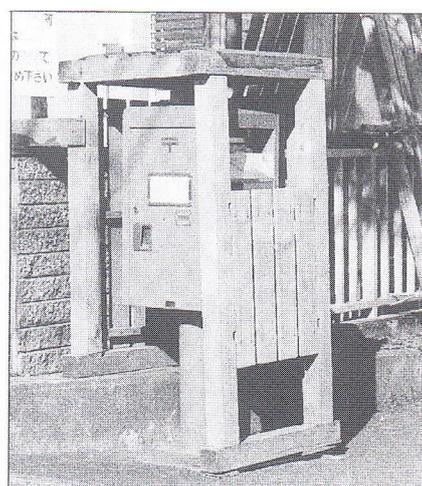
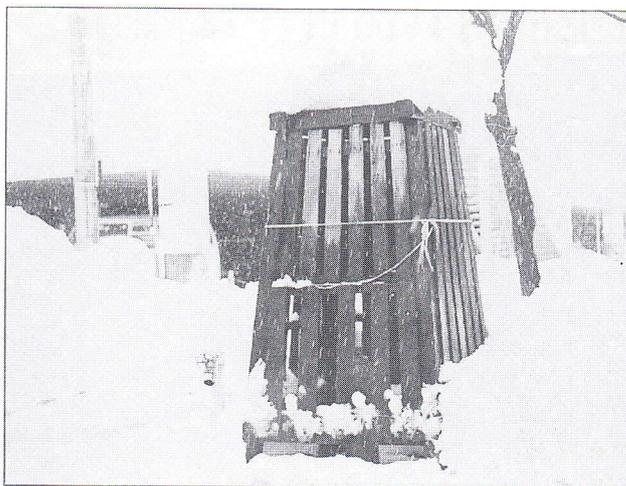
ヒバチ 7-13
51×50cm 高さ29.4cm
鉄 雪中校暖房用火鉢



ヒバチ 7-14
58×58cm 高さ30.3cm
鉄 雪中校暖房用火鉢

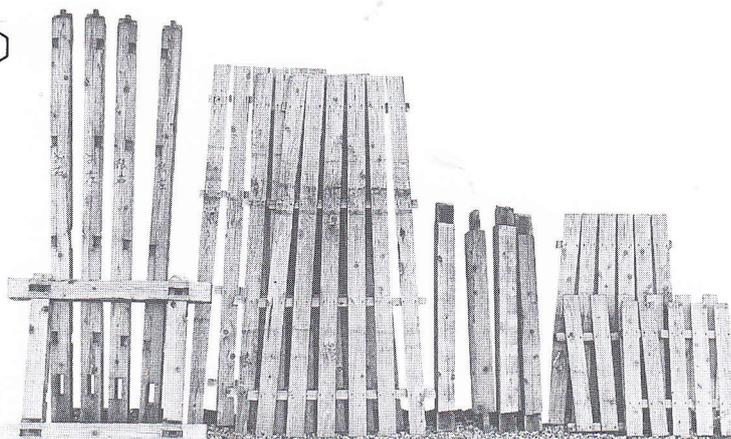


■防火用水の囲い(左・中央)



■郵便ポストの囲い

〔防火用水用具〕

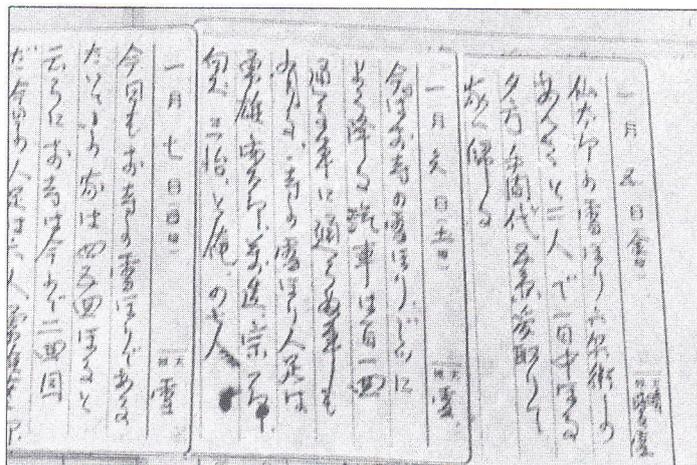


ボウカヨウスイカコイ 7-10
全高210cm
杉 防火用水の雪囲い用具

〔その他〕



ニッキチョウ 7-19
18.8×13.5cm 厚さ1.7cm
紙 雪掘り番等の記載のある日記帳
(昭和20年の大雪のようす)



冬の学校のことなど

冬になって、学校から遠く離れた地域の子供たちが、雪道を通学するのが困難だったり、危険箇所があったりすると、安全をはかるために、そのムラの近くに特別の教室を設けて授業を行なった。これが冬季分校であるが、雪中派出校などともいい、児童たちの少ない時は民家の一室を借り上げて開設したりした。

雪中、子供たちにとって山谷を越えて学校に通うのは大変なことで、時には雪崩の危険にさらされもするし、大雪の降る日や吹雪の日などは命がけであり、道を見失うこともある。通学する子供たちの辛苦もさることな

ら、それを送迎し、家で待つ親たちの心労も殊更であったのである。

冬季分校に限らないが、昭和10年代くらいまでの学校では、冬の暖房といっても教室に大型の火鉢一つを置くくらいで、炭火を使っていた。写真には鉄板製の火鉢があるが、それ以前は木製の火鉢であった。

雪中の学校ではまた、除雪用のコシキや道踏み用のカンジキも必要な備品で、大雪の日には玄関に積もった雪をこれで処理しないと、子供の登下校に支障をきたしたのである。

●社会生活用具品目一覧〈計19点〉

●道開け用具（道踏み当番表）：ミチフミバン・ミチフミバングミ
チョウ ●告知用具：タテフダ ●防火用水用具：ボウカヨウスイ
カコイ ●冬季分校用具：トウキブンコウカンバン・ヒバチ・シミ
バコ・コシキ ●その他：ハンボン・ニッキチョウ